

○バス停

桜の花びらが舞うバス停のベンチに、和馬（26）と

遥（24）が座っている。遥の前にはスーツケース。

遥 「次会うのは……一ヶ月くらい先、かなあ」

和馬 「……んー」

遥 「なんか、変な感じだね。今までずっと一緒にいたのに」

和馬 「……あー」

遥 「あ、ねえ、向こうの写真、撮って送ろうか？」

和馬 「いらねーし」

遥 「（楽しそうに）えー、じゃあ勝手に送りつけよっかな」

正面を向いた遥の横顔が、春の光に輝く。

それに見惚れる和馬。無意識に遥の頬に手を伸ばす。

が、それに気づいた遥は驚いてその手を避ける。

遥 「わっ、何？」

和馬 「あ、や……花びら、髪についてたから」

遥 「え？ あー。（左手で髪の毛を払って）とれた？」

遥の左手薬指に指輪が光る。

和馬 「……うん」

バス停に近づくバスが見えてくる。

遥 「あ、もう来るね。（立ち上がって）わざわざ見送りありが

と。また結婚式でね、お兄ちゃん。お父さんとお母さんに

もよろしく」

和馬 「……ん」

遥が到着したバスに乗ろうとすると

和馬 「あ、遥」

遥 「（振り向いて）ん？」

和馬 「あー……信行くんに、よろしく」

遥 「（幸せそうな笑顔で）うんっ。じゃあ、いつてきます」

遥を乗せて、バスが発車する。窓から小さく手を振

る遥に片手を上げて答える和馬。

バスが見えなくなるまで見送ると、和馬はベンチに

座り、遥が座っていた箇所指で触れる。

ベンチの上の桜の花びらが風にさらわれる。（終）